「主イエスの生命に生かされて」

創世記２８章１３－１７節
ガラテヤの信徒への手紙３章２３－２９節
森島　牧人　牧師

私たち人間にとっての主イエスによる罪の赦し・罪からの清めは、バプテスマの一回きりで完成するというものではなく、さらに日々赦され、清められ、生かされていく必要があるということを先回学びました。つまりバプテスマは信仰のゴールではなく出発点であり、神の子とされた私たちは日々成長して神の子らしくなって行かなければならないということです。バプテスマを受けた時に与えられた白い衣をそのまま着続けた昔の教会の信徒のように、私たちも心の中でバプテスマの時の白い衣をしっかりと身につけ、再び白い衣をいただくその日まで歩んで行かなければなりません。宗教改革者ルターが言ったように、私たちは＜赦された罪人＞です。その罪を脱ぐのではなく、その上に義と聖を表すキリストの衣を着る、そんな私たちキリストの衣に覆われた者を見て神は、私たちを受け入れてくださるのです。先回言いましたが、その意味で＜白い衣＞は＜救いの衣＞なのです。

この衣のことを考える時いつも思い出す旧約の物語があります。それが今日の聖書です。逞しく父イサクにも愛されていたエサウが受け継ぐことになっていた長子としての祝福を、エサウの衣を着ることによって老いた父イサクをだまし、自分のものとした弟ヤコブの物語です。かつて空腹を満たすために長子の権利を譲ると誓ったエサウの言葉をヤコブは憶えていたのかもしれません。事の次第を知って怒り、密かに弟ヤコブを殺そうと企むエソウから逃れて遠くまで来たヤコブは、その場にあった石を枕に横たわります。聖書には「彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。見よ、主が傍らに立って言われた。『わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。・・・見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ戻る。・・・』ヤコブは眠りから覚めて言った。『まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。』・・・」（創２８：１２－１７）とあります。

さて、私たちが白い衣であるキリストを着るのは決して自分の罪を隠すためではありません。キリストの衣を着ることによって、内面を外面に相応しいものに変えていただくためです。今日のガラテヤ３：２６・２７にも「・・・バプテスマを受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」とのパウロの言葉があります。さてキリストを着るとはどういうことでしょう。

英語で、「私は神を信じます」は“I believe God”でなく、“I believe in God”で、＜in＞が入っています。信仰によって人は神のものとなり神の中に入るということです。また「バプテスマを受けてキリストに結ばれた」は“you are baptized into Christ”で、バプテスマの時の状況は洗われるのではなく「取り込まれる」となっています。キリストを着るとは、衣がその人を包み込むように、信仰者がキリストの体の中に入り込むということです。この時のキリストは、復活されたキリストですから、信仰者はキリストの体である教会の一つ一つの部分、口・手・足などとなってキリストに生かされ、キリストと共に生きる者となる、これが“you are baptized into Christ”です。

パウロはフィリピ１：２０で「・・・わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと・・・」と書いています。「崇められる」は＜大きくする＞という意味で、キリストを着たキリスト者（Imago Dei）である私たちは、自分をキリストの中に隠してキリストの栄光を表すために生き、キリストのために働く者として生きるという自覚をもたなければなりません。神はキリストを通して私たちを神の子として見てくださるのです。ならば私たちも、私たちを通して人々にキリストを見てもらうために生きるべきです。キリストを着た者は、どんな時でもキリストを証しする者であるべきなのです。

制服を着ると責任感が増すものですが、キリスト者の制服は＜キリスト＞です。古い人を脱ぎ捨ててキリストを着るため、私たちは日々自分を脱ぎ捨てる、これが悔い改めるということです。そしてキリストを着るということはキリスト者・信仰者として生きるということです。そのためにバプテスマの時だけではなく、毎日毎日をキリストを着た者として新しく踏み出す、それこそが私たちキリスト者の在り方ではないかと思うのです。

（説教要約　羽入田悦子）